



医療連携センターだより No.45

# みなとから風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)  
<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

●発行：2022年1月 医療連携センター

## Contents

- 2022年のご挨拶……………P1
- FLS (骨折リエゾンサービス) チームのご紹介…P2
- 患者さんにやさしい低侵襲な治療をモットーに…P3
- 患者紹介にかかる連絡先一覧……P4

## 本年も宜しくお願ひ申し上げます

横浜市立みなと赤十字病院 院長 伊藤 宏



明けましておめでとうございます。

日頃より、横浜市立みなと赤十字病院の医療活動に多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当院は本年も良質な医療の提供と、地域の皆さまの健康増進に貢献するため、全職員一丸となって邁進してまいりますので、どうか宜しくお願ひ申し上げます。



昨年 2021 年は新型コロナウイルス感染症に、日本中が振り回された年でした。当院も新型コロナ対応に

追われた 1 年間でした。特に昨年 8 月から 9 月の第 5 波では、新型コロナ患者の爆発的増加により、一時は一般診療を制限せざるを得ない事態となりました。地域の皆さまにご迷惑をお掛けしましたことを、ここよりお詫び申し上げます。

現在はワクチン接種も進んで、日本全体が落ち着きを取り戻しています。しかしながら、世界から新型コロナウイルスが無くなったわけではありません。私たちも今のうちに傷ついた医療を立て直して、新たな波に備えなくてはなりませんし、たとえ昨年のようなパンデミックが起こったとしても、なんとか通常医療の提供体制を維持出来るように準備を進めています。

当院は市民のための市立病院として、さらに、人道博愛の赤十字精神に基づいて医療活動を行う赤十字病院として、皆さんに高度な医療を提供することを使命として活動を行って参りました。今後、医療を取り巻く状況は、コロナ前とは大きく異なるものとなると思います。しかしながら、当院が地域の皆さまのために、地域の病院としての使命を全うしていく決意はまったく変わりません。

当院の活動の中で、地域医療連携は大きな柱のひとつです。今後も医療連携センターが窓口となって、患者さんおよび地域の先生方と当院の各診療科との間を橋渡しすることにより、当院が提供する高度で良質な医療をスムーズに地域の皆さんにお届けしていきます。

当院が無事に新年を迎えたのも、登録医の先生方をはじめ多くの皆さまのご支援とご協力の賜です。どうか本年も宜しくお願ひ申し上げます。

## FLS(骨折リエゾンサービス)チームのご紹介

院長補佐、手外科・上肢外傷整形外科部長 **若林 良明**

整形外科では地域の先生方からのご紹介や、救急搬送で運ばれてきた骨折患者さんの診療を担当しており、最先端の知見や技術を取り入れ、患者さんにとって最小侵襲で最大の恩恵を提供できるような手術をこれまで積極的に行ってきました。

しかし、当院が開院して16年、過去に当院で骨折の手術を受けてしばらく経過は良かったものの、何年か経過し再び転倒して下肢や脊椎を骨折し、当院で再手術を受けることになった患者さんを診る機会が増えてきました。

最初の骨折の際に、骨折治療だけに傾注せずに、骨粗鬆症や易転倒性などにアプローチしておけば防げた骨折もあったのではないかという自省から、FLS(骨折リエゾンサービス)チームの立ち上げを準備して参りました。

FLSの対象者として、骨折の頻度が高く、また通院で治療を継続できる橈骨遠位端骨折に当面のターゲットを絞りました。整形外科医による骨粗鬆症評価と骨折治療に加え、内分泌内科医による加齢以外の骨粗鬆症を起こす内科的疾患のチェックと投薬内容の検討、薬剤師による薬物治療歴の確認、作業療法士による易転倒性などの評価・介入、看護師による生活環境の確認や治療継続のサポート、事務員による地域医療機関との情報送受など、

それぞれが役割をもったチームを編成して、設備とスタッフが揃った病院で行うべき初期評価と初期治療の導入を体系化しました。

当院は急性期治療を担当する中核病院のため、中長期に渡る骨粗鬆症治療を最後まで行なうことはできず、地域の先生方のご協力とご尽力が不可欠です。

先生方には当院の情報を提供させていただいて、治療の維持・継続をお願いすることになりますが、その後も何らかの理由による治療途絶や、再転倒・二次骨折などの事象、検査結果の推移などの情報を共有させていただき、地域の中高齢者の二次骨折を最小限にしていく試みを継続したいと考えております。本活動へのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



積極的に勉強会も開催しています



多職種が一丸となって取り組んでいます

後列左から 石田 和美 上野 優美 鳥澤 奈央 梅森 蓉子 渡辺 和江 神田 恵子 芹澤 健輔  
前列左から 緒方 奈央 南 熱 若林 良明 田野 敦寛 鈴木 るみこ

## 患者さんにやさしい低侵襲な治療をモットーに

泌尿器科 部長 村上 貴之



現在、泌尿器科は常勤医6人で診療を行っています。高齢化社会に伴い泌尿器悪性腫瘍の増加はもちろん、排尿障害などのQOLを損なうような疾患も増えてきております。当院では良性疾患の治療から癌治療、緩和医療を行っており、患者さんのニーズに合わせた治療をできる限りするように心がけております。

当院泌尿器科の特徴として、ロボット手術と女性泌尿器疾患治療があります。

ロボット手術は2014年2月より開始しており、県内では4施設目と早い時期の導入となっています。ロボット手術は出血量が少ないとや、再現性が高いことなどの利点があり、また、患者さんの体への負担が少ない低侵襲手術と言えます。このメリットを生かし、現在では前立腺癌、膀胱癌、腎癌、骨盤臓器脱に対し施行しています。

女性泌尿器疾患として難治性過活動膀胱、腹圧性

尿失禁、骨盤臓器脱などがありますが、残念ながら、これらの治療はどの施設でも行っておらず、地域の先生方が紹介先に困っているという話を聞くことがあります。当院はこれらの治療に対し、県内有数の治療実績を誇っています。

特に、骨盤臓器脱の手術については症状、脱の程度や患者さんの希望などを考え治療法を選択しています。基本的にはメッシュを用いた手術がメインになりますが、感染などのリスクが0ではないため、状況に応じ非メッシュ手術も行っております。メッシュ手術については、経膣的（TVM手術）および経腹的（LSC手術）に行っており、ロボット手術（RSC手術）も保険収載に伴い2020年4月より開始しております。

前立腺肥大症に対しても、レーザー核出術（HoLEP）およびレーザー蒸散術（CVP）を行っています。

新しい低侵襲治療の導入も積極的に行いたいと考えております。今後も地域の先生方のご要望に応えられるよう日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



後列左から 吉田 健太  
清水 麻央 川畠 遼  
前列左から 時田 貴史 村上 貴之 小貴 竜昭

## 外来診療のご予約

**☎045-628-6365**

【受付部署】医療連携課

【受付時間】平日 9:00~16:00

紹介状をお持ちの初診患者さんにつきましては、事前に予約をお取りいただけます。※当日のご予約は承っておりません。

## 緊急受診のご依頼（救急）

**☎045-628-6365**

【受付部署】医療連携課（夜間・休日は救急救命センターに転送されます）

【受付時間】24時間365日

医師同士でお話いただき、お受入の可否を判断いたします。  
お手数ですが、医師よりご連絡をお願い致します。

## 医療機関専用ホットライン

ニューロホットライン（脳卒中・神経救急疾患） **☎045-628-6865**

循環器ハートライン（循環器疾患） **☎045-628-6867**

心臓血管外科ホットライン（大動脈緊急症） **☎090-5560-0584**

## 医療機器の共同利用

CT・MRI・骨密度・マンモグラフィ（利用対象：登録医）

**☎045-628-6365 FAX 045-628-6367**

【受付部署】医療連携課

【受付時間】平日 9:00~16:00

※2022年1月現在、放射線診断科常勤医の欠員に伴い、当面の間、  
以下の通り運用を変更しています。詳細についてはお問い合わせ下さい。

- ①読影の一時休止（画像CD（画像フィルム）のみを送付）
- ②費用：当院から紹介元医療機関へ請求（紹介元医療機関はレセプト・患者請求）

RI・PET/CT（※登録医以外からも承ります！）

**☎045-628-6881 FAX 045-628-6763**

【受付部署】核医学検査室

【受付時間】平日 8:30~17:00



紹介患者さんのお問い合わせ・ご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365(直通) / FAX 045-628-6367(直通FAX) 受付時間 平日 8:30~17:00



横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号  
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

検索

病院ホームページ

